

どこでもみれる？ コモンディジーズとしての感染症アップデート 正誤表

このたびは『medicina』61 巻 3 号 (2024 年 3 月号) 特集「どこでもみれる？ コモンディジーズとしての感染症アップデート」をご購入いただき、誠にありがとうございます。本誌におきまして、以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2024 年 3 月 18 日作成 2024 年 4 月 4 日更新

訂正箇所	誤	正	掲載
松田 光弘「日常診療で役立つ 皮膚科治療薬の選びかた・使いかた 第3回ステロイド外用薬③ 使用期間の目安と薬剤の選びかた」p. 409 図1「成人男性、顔面の紅斑」	 図1 成人男性、顔面の紅斑 〔文献1「相場節也：脂漏性皮膚炎，岩月 啓（監），照井正，石河 晃（編）：標準皮膚科学第11版，p137，医学書院，2020」より転載〕	 図1 成人男性、顔面の紅斑 〔文献1「相場節也：脂漏性皮膚炎，岩月啓氏（監），照井正，石河 晃（編）：標準皮膚科学第11版，p137，医学書院，2020」より転載〕 「岩月 啓（監）」を「岩月啓氏（監）」に訂正	2024/3/18
松田 光弘「日常診療で役立つ 皮膚科治療薬の選びかた・使いかた 第3回ステロイド外用薬③ 使用期間の目安と薬剤の選びかた」p. 412 文献1	1) 相場節也：脂漏性皮膚炎．岩月 啓（監），照井 正，石河 晃（編）：標準皮膚科学第11版，p137，医学書院，2020	1) 相場節也：脂漏性皮膚炎．岩月啓氏（監），照井 正，石河 晃（編）：標準皮膚科学第11版，p137，医学書院，2020	2024/3/18
島田侑祐・他「主治医のCOVID-19罹患後に高度低酸素血症と肺炎をきたした一例」p. 566 左段5～9行目	前者はメトトレキサート（メソトレキセート [®] ）や抗がん剤〔ブレオマイシン（ブレオ [®] ）など〕が有名であり，後者はいわゆるアレルギー機序のため多種多様な薬剤で生じる．	前者は抗がん剤〔ブレオマイシン（ブレオ [®] ）など〕が有名であり，後者はいわゆるアレルギー機序のため多種多様な薬剤で生じる．	2024/4/4